



## 〔萩に関する自由研究〕

『萩市郊外の水辺を訪ねて』

冷え固まる過程でひび割れた玄武岩の柱状節理が見られます。両岸に柱状の岩壁、河床に亀甲状の石畳という圧巻の光景となっています。

## ◆扇子落滝◆

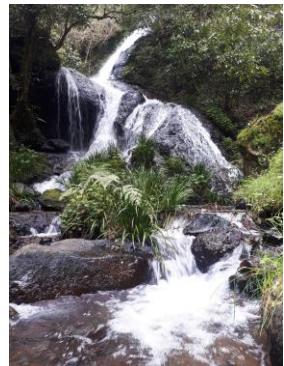
(おうぎおとしのたき)

人との接触が少ない場所を選んで、適度に体を動かすことを目的として出かける。そ

うとはいって、いささか自分勝手だろうかと迷いましたが、以前から気になっていた萩市郊外の山中の水辺を訪ねることにしました。(わが身を振り返り、以後こうした外出は控えることにしています。)

## ◆道永の滝◆

(どうえいのたき)



戦国時代に、陶晴賢の残党が山伏となつてこの地に逃れたといわれ、その子孫が滝つばのそばの洞穴に黄金の茶釜を隠したという伝説があります。ちなみに、湧き水を源としているため、水温は一年を通じて一四度前後なのだそうです。

## ◆三明戸湧水◆

(みあけどゆうすい)

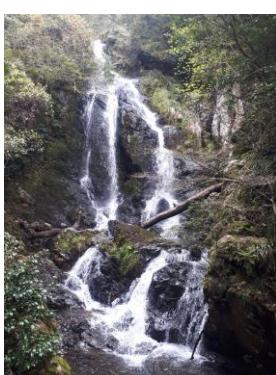
◎平成の名水百選  
三明戸湧水・阿字雄の滝



## ◆阿字雄の滝◆

(あじおのたき)

↓平成の名水百選とは?  
昭和六〇年に選定された名水百選に加え、平成二〇年に新たに選定されたもの。



中央奥の石の下などから  
こんこんと水が湧き出す。

の儒学者和智東郊の漢詩が浮彫されています。

日上林巻入畫図  
畠成素練掛崎嶇  
請看石上題詩處  
字々與流飛作珠  
宝曆十三壬午閏孟夏 東郊  
(和訳は宿題か…)



浮彫された和智東郊の詩、  
写真では判りませんね。

↓和智東郊 (わちとうこう)  
毛利家の家臣、儒学者。江戸留守居役などを務めた。藩校明倫館の創設に関わった山県周南門下三傑の一人。ちなみに、周南は「明倫館」の命名者でもある。



## ◆畠ヶ淵◆

(たたみがふち)

70 cm大の亀甲状の石畠が広がる。  
浸食作用で滝は徐々に後退していく。

## ↓陶晴賢 (すえはるかた)

戦国時代の武将。大内氏の重臣として武勇と軍事的才覚を発揮したが、大寧寺の変で主君の大内義隆を討つ。その後、厳島の戦いで毛利元就に敗北し自刃した。

阿武火山群の羽賀台 (安山岩の溶岩丘) の天然のフィルターでろ過された湧き水。昔から農業用水としても使われ、この地域の簡易水道の水源にもなっています。

江戸時代初期から明治四年まで、傍らに弘誓寺 (くぜいじ) がありました。現在は観音堂がひつそりと建っています。なお、苔に覆われて見づらいですが、滝下の巨岩には、萩

滝の多い町で育った私は、滝のある風景に癒しと親しみを感じます。コロナ禍が落ち着き、安心して外出できるようなら、さらに広域の滝を目指してみたいです。

伊良尾山 (いらおやま) の噴火による溶岩流が、急激に